

令和3年度 第1回（第21回）四国中央市子ども・子育て会議 議事要旨

日 時 令和3年11月18日（木） 13:30～15:00

場 所 四国中央市庁舎市民交流棟2階 会議室1・2

委員出席状況

【出席】

委員長	宮崎 政夫	(元公立保育園民営化選定委員会委員)
副委員長	宮崎 さゆり	(四国中央市民生児童委員協議会)
委員	内田 多重子	(公募市民)
委員	中西 かふみ	(NPO法人ふれあい)
委員	高橋 真弓	(四国中央市立三島東幼稚園長)
委員	土肥 義紹	(学校法人金生幼稚園理事長)
委員	三好 桂子	(四国中央市立北保育園長)
委員	高橋 尚子	(社会福祉法人伊予三島福祉施設協会 みしま乳児保育園長)
委員	藤川 美江	(育児サークル「リトル☆スター」)
委員	井上 俊正	(四国中央市地区労働者福祉協議会)
委員	三宅 彩香	(しこちゅ～・ほこほこネット)

【欠席】

委員 和田 恵美子 (公募市民)

【事務局】

福祉部長	大西 緑
こども課長	合田 晃友
こども課	吉岡 美和、梶原 靖久、庄司 宗和、鶴野 大作、大原 和江

【傍聴者】

なし

1. 開会
2. 部長あいさつ
3. 委員自己紹介
4. 事務局自己紹介

7. 議事

(1) 第二期四国中央市子ども・子育て支援事業計画について

事務局より順次説明

[委員長]・ 第二期四国中央市子ども・子育て支援事業計画について、只今事務局より説明があったが、本日の説明や冊子等で何かご質問やご意見があれば伺いたい。

一質問・意見等なし

- ・ 基本的には、中間報告ということになるので、計画より実績は少なめに出ると思われるが、延長保育、放課後児童クラブについては、計画より多くなっている。その理由がわかれば教えていただきたい。

[事務局]・ マスクやウェットティッシュ等の紙関係の企業さんは、受注が増えていると聞いている。また医療従事者も仕事量が増えて、延長保育を利用する方が増えたのではと考えられる。

[委員長]・ コロナの影響で、いろいろなイベントも中止になったり、子育てフェスタもオンラインになったりしているが、引き続き気を付けながら対応してほしい。放課後児童クラブは、増えているのか。

[事務局]・ 年々増えており、特に7、8月の夏休み等は、放課後児童クラブの利用希望が一番多くなるので、6月ごろからアルバイトを募集したり、小中学校の教育支援員の方々に依頼をしたりして、対応している。

(2) 保育施設利用調整実施基準の改定について

事務局より説明

(3) その他

西保育園の今後の方針について

事務局より説明

[委員長]・ テレワークという話が出たが、コロナ禍においてどうしてもテレワークが多くなると聞いている。

[委員]・ コロナ禍において、自分たちと同じ紙関係は生産が増えている。ただ東京や大阪などの営業等ではテレワークを行っているが、製造業はなかなかできない状況がある。

[委員長]・ 紙関係の企業は、生産が増加していると聞く。

[委員]・ 放課後児童クラブと放課後子ども教室が一つになると聞いた。また、これまで4年生までの利用が、6年生まで利用できるようになると聞いたが、詳細を聞きたい。

[事務局]・ 今年度までは、小学4年生までの利用だったが、県内の状況を見てもほとんどの市町が、6年生までの受け入れをしていることから、令和4年度からは、小学6年生まで利用できるようになる。放課後子ども教室は、生涯学習課が行っているが、来年度も一緒になるのではなく互いに連携しながら行っていくという方向ですすめていく。放課後児童クラブの負担金については、令和2年度から、1か月5,000円、土曜日の利用がある方は、6,000円。8月は、10,000円、土曜日利用がある方は11,000円。生活保護の方やひとり親世帯の方、また非課税世帯の方は、5分の4軽減で5分の1の金額で利用できるようになっている。

- [委員]・ 自園でも放課後児童クラブの事業をはじめ、利用人数は少ないが令和4年度継続するどうか悩んだ時期があった。学校、家庭、放課後児童クラブとそれぞれ子どもの姿が違う。その中で起こるトラブルについての対応が難しい。子どもは、学校の先生の言うことは聞くが、放課後児童クラブの先生の言うことは聞きにくい。放課後児童クラブは、教育の場であり、福祉の場でもあり、指導が難しい。指導員の人数確保、指導員の力量、知識、また手当等実際に始めて見て大変さを痛感している。
- [委員]・ 地域子育て支援拠点事業を進めていく中で、特にコロナ禍で、出かけられなくなり、子育ての場を求めている保護者が多いことを実感し、この事業の必要性を感じている。今日も来月の予約の電話が13時から鳴りっぱなしであった。コロナ禍の中では、密にならないよう人数を減らして受け入れをしてきた。子育て中の不安な母が人と交わることの大切さを感じている。受け入れ人数に限界があるので、報告では参加人数が減っているように見えるが、希望者は増加している。コロナの感染者が落ち着いてきているので、公民館等を利用して、少しでも多く受け入れられるよう工夫し対応している。希望している多くの方が利用できるように進めていきたい。
- [委員]・ 0～3歳の未就学のお子さん対象に土居地域の公民館で、キッズステーションという名前で、いろいろな活動をしている。家庭教育サポートリーダーとして、子どもと遊んだり、保護者の方のサポートをしたりしている。保護者の方は、手芸したり、おやつを作ったり、楽しく活動している。
- [委員]・ 公立幼稚園は市内に4園あるが、園児数は全体に減少している。公立幼稚園は、母親がフルタイムの仕事を持っていない方、仕事ができない状況の方、またこれから働くことを考えて、仕事を探しているという方も利用している。公立幼稚園の存在意義を考えると、幼稚園の保護者は、親子で園行事を楽しみたいという思いで利用してくださっている。ただ、コロナ禍の中、従来のように幼稚園で親子行事ができていない状況なので、小人数体制で、少しでも親子で園行事が楽しめるよう工夫している。例えば、参観日も学年ごとに行い、教室の外から参観して子どもの姿を見てもらおうようにしてきた。現在、少しコロナが落ち着いてきたので、教室の中に入って参観してもらおうことができた。親子で、園行事を楽しめるよう工夫して考えていき、公立幼稚園の良さをアピールしていきたい。
- [委員]・ 公立保育園は、7：30～18：30までの標準利用が増加している。7：30に登園する子どもについては、これまでは早出の先生が1か所で受け入れてきたが、コロナ禍の中で密を避けるために、各クラスで対応すると4名の先生が早出をする必要があり、大変だったが感染を防ぐために職員で協力して進めてきた。今少し落ち着いてきているが、気を緩めることなく対応していきたいと考えている。昨日も18：30の最後まで保育園でお迎えを待っていたのは、1歳児2名で、利用ニーズが低年齢化している。子どもたちが安心して過ごせるような環境を工夫し対応していきたい。
- [委員]・ 「リトル・スター」では、コロナの影響で、大々的なイベントはできていないが、主に二つのイベントを実施している。
一つは、子ども服のリースをする「くるりん」というイベントで、一度着た服の再利用ではあるが、保護者の方にも喜ばれていると思う。もう一つは、「ねぞうアート」で、子

どもの写真を撮るイベントだが、コロナ禍の中で、多くの人数が集まれなくなったので、職員で作成したり、個別訪問したり、場所を借りて、2組くらい募って、安心安全な中で、親子で楽しく写真を撮るイベントを行っている。

自分は、川之江で幼児クラブも行っているが、これまで合同でしていたものをコロナの影響で、小人数で2部制にしてきたことで、親子とスタッフ・先生が密な関係ができ、話しやすくなり、関係性がよくなったと感じている。人数が減った分一人一人と関わることが増えたことで保護者の方も育児の悩み等が話しやすく身近な存在になっているのかなと感じている。コロナが落ち着き、人数を増やすと一人一人と関わることが少なくなるのではと逆に心配になったりしている。触れ合える機会が増えたことはよかったかなと感じている。

[委員長]・ コロナの影響で、市においても子育てフェスタが従来通りできない状況だった。

[委員]・ 市からの委託事業で、産後ケアを行っている。

これまでは、対象が産後4か月までだったが、法の改正に伴って、令和3年度からは、産後4か月を超えてもケアが著しく必要な方は、産後6か月まで延長できるようになった。産後ケアの重要率があがってきている。育児の不安、負担の上にコロナが加わり、産後ケアがより必要となっている。今後は、里帰り先で育児がスタートできる体制を整えることが大切であると考えている。ワクチン接種が、妊娠中また授乳中でも胎盤を通して、また授乳を通して免疫ができるので、安心してできることをもっと伝えてほしい。

[委員]・ ふわりんは、0～3歳までの未就園児親子5組と決めている。広い場所が必要な時は、公民館を借りるなど、工夫している。自由遊びが中心ではあるが、予約をして参加してもらっている。

[委員長]・ 子育て支援の方が、たくさんおられるが、それぞれお互いが情報交換できる場はあるのか？

[委員]・ 連絡会があり、それぞれの拠点施設の情報を知る機会となっている。また、良いところは、どんどん取り入れるなどして、広がりを見せている。

[委員]・ コロナの影響で、主任児童委員としての活動はできていない状況で、定例会も持たない中、グループラインで定例会を行った。それぞれの思いをラインの中でつぶやくことで、顔は見えなくても、気持ちは伝わったのではないかと感じている。保健センターにも入れないので、紙おむつだけ配ってもらうようにした。今後、何か新しい事業、自分たちの活動を検討している。

[委員]・ 自社は男性の育児休暇100パーセント取得宣言をして目指しているが、製造ラインの男性が、なかなか取得できない。もともとある「すくすく休暇」の5日は、取得できるようになってきている。どうしたら育児休暇が取得できるのか、男性も育児参加できるように勧めているが実際なかなかとれない。そこで、子育て、育児の応援をしようということで、年休の範囲内ではあるが、孫休暇取得の推進も取り入れている。年配の者が率先して休むことで、若い者も休みやすいのではと考えている。いろんな形で男性が参画していかななくてはならないと考えている。

[委員]・ 男性の育児休暇の話が出たが、自分自身8月に4人目を出産して感じたことだが、コロナの影響で、夫の仕事の研修が中止となったり、リモートになったりで、家にいること

が増え、産後2週間の家事をすべて夫が担ってくれたことで8年前、10年前に出産した時より、はるかに身体の調子が良く、心身ともに今とても良い状態。産後2週間の大切さを実感した。ただ、男性がいざ育児休暇を取得しても結局赤ちゃんと夫の世話をしなくてはならず、そんな育児休暇は必要ないという話も聞く。ケースバイケースであると思うが、育児休暇取得を推進するのであれば、夫がどんなことをすればよいのか、具体的に示してもらえるとありがたい。産後の記憶は、一生残っている、老後の夫婦間の絆を大切にするためにも是非検討してほしい。

[委員]・ 放課後児童クラブのことだが、夏休みに放課後児童クラブで感染者が出たときに、市内全部の放課後児童クラブが閉鎖となったが、感染が出た放課後児童クラブ以外の放課後児童クラブを閉鎖する必要はあったのか。急に仕事を休まなくてはならなくなり、困ったという声も聞いた。

[事務局]・ 夏休み中は、児童の行動範囲が広いこと、2学期始業式前で、それぞれの学校で全校に広がり感染拡大が予想されたこと、市内においても感染者が多く出ていたこと等を踏まえて、市内全部の放課後児童クラブを閉鎖する決断をした。医療従事者等どうしても休めない方は、希望すれば利用できるように周知していた。

[委員]・ 一人当たりの面積で放課後児童クラブの収容人数が決まり、待機児童がいると聞いている。待機児童の対応策は、あるのか。

[事務局]・ 令和4年度から、松柏小放課後児童クラブが開設、また民間参入ということで、令和2年度から金生幼稚園さんが実施してくれているが、令和4年度からアンジェリーナ保育園においても放課後児童クラブが開設されるので、待機児童の解消になると考えている。

2) その他について

- ① 第22回 四国中央市子ども・子育て会議は、令和4年6月に開催予定。
- ② 「ママをやめてもいいですか!？」オンライン上映会について (チラシ配布)

部長あいさつ



事務局より説明

